



現庁舎は建築から49年が経過し、「施設・設備の老朽化」「耐震性の不足」「省エネ・バリアフリー等への対応不足」などの問題を抱えております。また、隣接する現文化会館も建築から47年が経過し、老朽化が著しく、耐震性の不足などの問題を抱え、現庁舎と同様に早急な対応が求められています。

このたび、現庁舎と文化会館の抱えるこれらの課題を解決するため、新庁舎建設検討委員会の答申を受け、「富良野市新庁舎建設基本計画(案)」を作成しました。

新たな庁舎は、「人、まち、自然をつなぎ、次世代の子どもたちへつなぐ庁舎」をテーマに、市民の生命と財産を守る防災拠点機能を強化し、災害に強く、また、市民と協働のまちづくりの拠点として、文化会館機能を複合化することにより、新たな賑わいを創造しながら、市民が気軽に訪れて親しみやすい庁舎とすることをめざしています。本計画の概要を市民のみなさんにお知らせするとともに、ご意見を募集します。

新庁舎は、将来の市の財政負担の軽減や、今後の賑わいのあるまちづくりを推進するため、庁舎と文化会館を複合化することにより、単なる既存施設の合築ではなく、それぞれの機能の特色を最大限に生かして、市民と地域、行政をつなぎ連携を推進するとともに、まちの魅力を発信していく施設の実現を目指します。



ご覧いただけます。

富良野市新庁舎建設基本計画(案)を作成しました みなさんのご意見をお寄せください

◎財政課 / 39-2306

今後は、みなさんからいただいたご意見を参考に「富良野市新庁舎基本計画」を決定していきます。

計画の位置づけ

本計画は、「富良野市新庁舎建設基本構想」の基本的な考え方に基つき、検討委員会や市民ワークショップ、地域懇談会等の意見を踏まえ、新庁舎に備える機能や規模、建築計画などをより具体化し、今後の設計や工事を進めるうえで、基本的な整備方針を整理するものです。

庁舎と文化会館の複合化

新庁舎建設事業 News 6 7

新庁舎建設にあたり、新庁舎建設検討委員会の検討状況などをお知らせします。◎財政課 / 39-2306



第5回検討委員会を2月19日に開催し、これまでの検討内容をまとめた「新庁舎建設基本計画(素案)」について、複合化の意義や庁舎に備える機能、事業規模及び事業費、事業手法を協議しました。

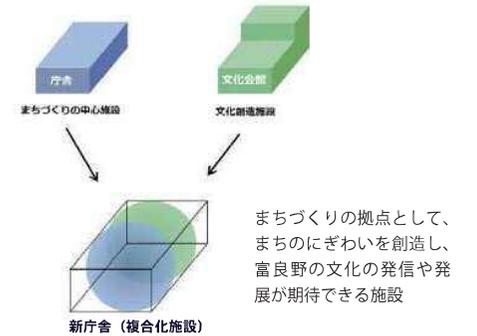
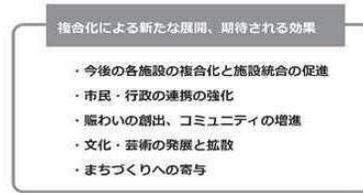
協議結果の答申にあたっては、これまでの経過を踏まえ、市の財政への配慮や行政機能の検討、市民意見の反映について、附帯意見としてまとめ提言することとし全ての協議を終了しました。

検討委員会の協議を踏まえ、新庁舎の在り方や複合化の意義等を次のとおり整理しました。

庁舎と文化会館の複合化の意義

■新庁舎の在り方
～まちづくりの拠点～
新庁舎を拠点としたネットワークによって、市民や地域など多様な人々をつなぎ、賑わいのあるまちづくりへと発展させる施設となることが求められます。

■庁舎と文化会館の複合化の意義
～将来への対応、コスト圧縮、相乗効果～



新庁舎建設 Q&A 市民のみなさんの 疑問にお答えします

分散化している行政窓口を集約するのはなぜですか？

現在、行政の窓口は、保健センターや、図書館などに分散しています。これは、介護や福祉分野の行政需要の拡大や、市役所庁舎の老朽化や耐震性が確保できないことから、2階フロアの揺れ解消のため、部署を移動させる軽減策をとったことにより、ももとは一つの庁舎内に配置されていた部署を、分散化したものです。

これにより、市民の皆さんに各種手続きで複数の施設を回っていただくご不便をお掛けしています。このような状況を解決し、市民の利便性を向上させるため、新庁舎には保健センター2階の福祉課や高齢者福祉課、図書館3階の教育委員会や子ども未来課、文化会館の市民協働課、社会教育課の集約化を考えています。行政の仕事は、それぞれの分野が関連性を持ちながら、業務を行っています。そして、行政が持つ多岐にわたる膨大な情報を集約し、市民や地域、企業などと情報を共有し、また、その情報を発信・提供することにより、市民と協働のまちづくりを推進しています。その事務を行う庁舎は、今後も「まちづくりの拠点

として、市民や地域をつなぎ、賑わいのあるまちへ発展させることが求められており、そのために分散化した行政機能を集約し、市民の利便性と市民サービスの向上を図っていく必要があります。

新庁舎の位置は、現庁舎位置で大丈夫？ 浸水時は誰も庁舎に行けないのでは？

庁舎が浸水する災害が起きると、市内中心部が浸水することも想定されます。そのような災害では、まずは自らの身の安全を確保することが重要で、その後の復旧活動は水位が下がった後となると考えます。庁舎の防災拠点機能は、災害発生時のみならず、災害後の復旧活動も非常に重要となるため、新庁舎は建物のかさ上げのほか、主要設備の上層階設置により2階以上で防災拠点機能が発揮できるよう対策を考えています。

現段階で考えられる浸水をしない場所は北の峰地区等の山際になりますが、民地を買収する新たな費用負担や市民の利便性など課題が多く、新庁舎の位置は、市民の利便性や経済性の観点から候補地の選定を行った結果、庁舎位置で浸水対策を講ずることとしています。

人、まち、自然をつなぎ、次世代の子どもたちへつなぐ庁舎

▶ 新庁舎建設の基本方針

新庁舎建設のテーマ「人、まち、自然をつなぎ、次世代の子どもたちへつなぐ庁舎」を受け、市民の生命と財産を守る防災拠点機能の強化を念頭に、まちづくりの拠点となるため次のとおり基本方針を設定します。

(1) 防災拠点機能を発揮できる災害に強い庁舎

新庁舎は、防災・災害対応の拠点として、耐震性能を確保した安心安全な災害に強い庁舎とします。

(2) 市民が利用しやすい庁舎

新庁舎は、行政サービス提供の拠点として、分散化している行政機能を集約し、市民の利便性に優れ、わかりやすい開かれた庁舎とします。

(3) 人や環境にやさしい庁舎

新庁舎は、バリアフリーやユニバーサルデザインの観点を取り入れ、全ての人が利用しやすい庁舎とするとともに、省エネ・省資源を取り入れた環境負荷の少ない庁舎とします。

(4) 機能性・効率性・経済性を重視した庁舎

新庁舎は、多様化する行政需要に対応し、将来の変化に柔軟に対応できる機能性と、維持補修や設備更新などがしやすい管理運営上の効率性や、ランニングコストを抑えた経済性を重視したシンプルで、スマートな庁舎とします。

(5) 市民が気軽に訪れて親しみやすい庁舎

新庁舎は、文化会館機能と複合化することにより、市民が気軽に訪れて集える場として、市民の活動を支援し、交流が熱い、まちづくりを考える協働の場として、行政情報や市民活動の情報を積極的に発信する庁舎とします。

▶ 新庁舎の位置

新庁舎の計画地は現庁舎敷地とします。なお、水害対策として1階床レベル等をかさ上げするなど建物の安全性を確保します。

▶ 新庁舎の配置

新庁舎の配置は、現庁舎を使いながら建設が可能な敷地北側とし、計画地周辺への影響に配慮します。

来庁者駐車場については、歩行者と車両動線の分離や利用者の利便性に配慮した位置とします。

▶ 新庁舎の規模

新庁舎に配置する部署及び職員数

新庁舎に配置する部署は、現庁舎及び図書館、保健センター、文化会館の配置部署を対象とします。

【新庁舎に配置する対象部署と職員数】

現在の配置施設	対象部署	職員数
現庁舎	全部署	169人
図書館	学校教育課、こども未来課	27人
保健センター	福祉課、高齢福祉課	33人
文化会館	市民協働課、社会教育課	15人
合計		244人

※対象職員数は平成30年10月1日現在の数です。

新庁舎の面積

庁舎と文化会館の複合化により、重複する会議室やその他の諸室を集約します。執務スペースの効率化を図るとともに、複合化する文化会館機能は、ふれあいセンターとの施設間の連携及び事業の整理・統合することで、必要機能の縮減を図ります。

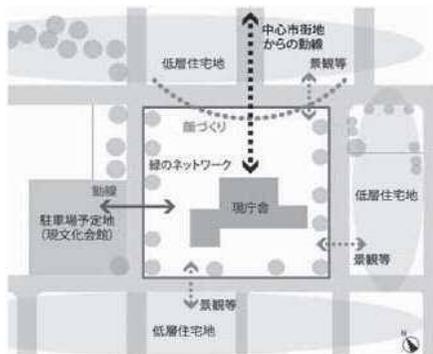
なお、文化会館機能の大ホールは600席程度の客席を基本的に、必要面積の縮減を図ります。

【新庁舎の目標面積設定】

現面積		新庁舎面積
施設名	面積	
現庁舎等	6,817 m ²	約 8,200 m ²
現文化会館	3,550 m ²	
合計	10,367 m ²	

駐車場の規模及び公用車台数

新庁舎における駐車場の規模は、現状の140台以上とし、現文化会館解体後の跡地については、駐車スペースとしての活用を予定します。



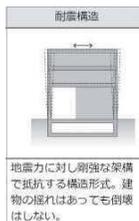
▶ 新庁舎の主な導入機能

防災拠点機能

耐震性能の確保

大規模な地震が起こった際でも、防災拠点施設としての機能が十分発揮できる耐震性、安全性を有する施設とするため、耐震安全性の目標を国の基準の最高水準に設定します。

建物の構造形式は、耐震構造を採用します。

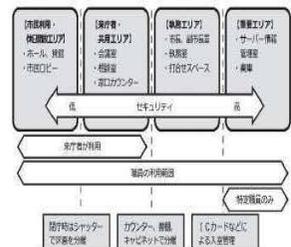


災害時の行政機能の確保

- 計画地は浸水想定地域（水深0.5m）のため、庁舎の床を0.5m程度かさ上げ被害の軽減を図ります。
- 災害対策活動を進めるための重要諸室や主要機械室は、浸水対策のため、2階以上の上層階へ設置します。
- 災害対策本部機能を、2階以上の設置、必要設備を整備します。
- 備蓄資機材を搬出入しやすい建物外に常備します。
- 非常時の各設備のバックアップは、最低限「72時間」は確保します。

セキュリティ機能

市民の個人情報や行政情報を多く取り扱う庁舎は、セキュリティ機能や防犯機能を整備し、来庁者や職員等の安全を確保します。



窓口・行政事務機能

ワンフロアサービス窓口

- 市民の利用頻度の高い窓口をできるだけ低層階に集中させ、関連部署を近接させるなど、市民の利便性の向上を図ります。
- 証明書発行等のワンストップ窓口や、時期によって来庁者の多い申請業務を受け付ける窓口（シーズンカウンター）を設置します。
- プライバシー保護のため、窓口カウンターの衝立てや相談ブースを設置します。

コンパクトな行政事務スペース

- 執務室は、ユニバーサルレイアウトを基本に、コンパクトで効率的な配置とします。
- 会議室等は、人数より柔軟に利用できるよう移動間仕切りを設置します。

ユニバーサルレイアウト



議会機能

- 市民の生活に直結する重要な案件の協議や、行政事務事業のチェック、市民に寄り添う行政執行の実現など、議会の果たす役割は大きく、常に真摯な議論をする場として位置付けることが必要のため、議場は現状と同様に議会専用とします。なお、会議等の使用も可能とします。
- 傍聴席に車いす用スペース及び親子傍聴室の設置を検討します。
- 議会関連諸室は、各室の関連性や議員の動線に配慮し、できる限り同一階に集約し、必要最小限の面積とします。

バリアフリー・ユニバーサルデザイン機能

- 年齢や障害の有無にかかわらず誰もがわかりやすく、使いやすい施設とします。
- 視覚障害者用誘導ブロックが高齢者にとって支障とならないようにインターホン等による誘導支援を検討します。
- 子育て世代が利用しやすいよう窓口の近くにキッズスペース、授乳室やオムツ替えスペースを配置します。

省エネ・省資源機能

- 外断熱工法等の採用により、エネルギー消費量の削減を目指します。
- 自然採光や自然通風換気等、自然エネルギーを活用します。
- 木材などの再生可能な資材を積極的に利用します。

市民活動支援機能

市民協働のまちづくりを推進するため、多機能多目的なスペースを設置することにより、市民の活動や発表の場を支援し、文化芸術の鑑賞・創造を推進します。

大ホール

- 多目的なホールを目指し、固定式客席とします。

会議室等の共用利用

- 庁舎会議室との共用利用ができる配置とします。
- 公民館事業の講座やふれあいセンター事業の講座などを統合し、会議室や研修室を集約します。

市民利用スペース

- 市民スペース空間を確保し、市民が気軽に集い、安らげるよう、飲食スペースや無料公衆無線LAN、非常時の充電設備を設けます。

市民の声



現庁舎の議場と天井の状況（吹き付けアスベストは天井の裏側で囲い込み経過観察）

意見
富良野市庁舎建設の「基本計画」には、次の2点を明記してほしい。
①地震災害発生時においては、現庁舎のままでは災害対策本部に参集する市の職員及び避難してくる市民は、アスベスト飛散にともなう肺がんなどの健康被害を受ける恐れがある。

回答
①現庁舎には、議場の天井裏に吹き付けアスベストが確認されていることから、毎年度、専門業者による飛散状況の確認を行い、経過を観察していますが、ご意見のとおり、地震災害発生により建物が倒壊するなどの被害を受けた場合は、基準値を超える飛散が予想されます。このことから、市では、早急な撤去が必要と考え、今回の新庁舎への建替えを進めています。

財政課
2019.2.30.6

富良野市庁舎建設「基本計画」について

②人口2万人程度の市では、巨額の新庁舎建設費用を圧縮するために、市民会館の「大ホール」と「議会の議場」の兼用化は避けて通れない。

設計が求められ、必要諸室の共用化により規模の縮減や事業費の圧縮を図っていく必要があると考えています。
庁舎と文化会館を複合化することにより、会議室等の共用利用を図ることができると考えていますが、諸室によつては専門性が求められる場合もあります。大ホールや議会の議場の在り方は、新庁舎建設検討委員会の検討や議会特別委員会の意見のほか、今後実施する予定の市民説明会やパブリックコメントにより、広く市民のみなさんから意見をいただき、最終的な基本計画を策定していきますので、今後ともご協力をお願いいたします。

(2月19日受付)

空いているのに
利用できない図書館

意見

同じ内容を数年おきに投稿していますが、2月26日と27日の図書館は、駐車場が満杯で停める所がない状態でした。この2日間、富良野小学校で集会があり、その出席者が長時間、図書館の駐車場を利用していただけです。学校が招集した集まりは、学校で対策が取れないのでしょうか？当日は職員の車利用を自粛するとが、市の他の駐車場を利用し、集会に来る人の場所を確保するとか、途中で帰らない人たちの車を詰めておくとか。図書館の駐車場を利用するのなら、利用者のために一部でも空けておくのが当然のマナーではないでしょうか。

回答

今後につきましては、これまでの周知方法にメールの配信を加えるなど、啓発に努めるとともに、体育館前の駐車場だけでなく、グラウンド側にも保護者の利用を確保いたしますが、限られたスペースのため、職員と保護者へ徒歩での出勤と来校を呼びかけてまいります。

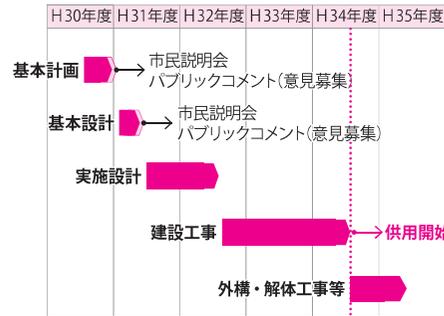
学校教育課
2019.2.32.0

(2月27日受付)

事業スケジュール

新庁舎建設の主な財源として、公共施設等適正管理推進事業債（市町村役場機能緊急保全事業及び集約化・複合化事業）の活用を見込んでいるため、平成32年度中に建設工事の着工をめざします。なお、供用開始は平成34年度を想定します。

新庁舎建設にあたっては、市民の意見を十分に反映する必要がありますことから、パブリックコメントや市民説明会などの適切な市民参加手続きを図りながら進めていくとします。



パブリックコメント 市民のみなさんの意見を募集します。

富良野市新庁舎建設基本計画(案)

意見募集

- ▼募集期間
4月1日(月)～4月22日(月)
- ▼公表場所
行政情報コーナー(市役所1階ロビー)、山部・東山支所窓口、文化会館ロビー、図書館ロビー、担当課窓口、市ホームページ
- ▼提出方法
①封書・FAX・電子メールなどの書面(様式は自由)、録音テープでお寄せください。
②担当課窓口へ直接提出(郵送可)、または意見箱(公表場所に設置)へ投函してください。
③意見を提出するときは、住所・氏名を記入してください。
- ▼提出先・問合せ
市総務部財政課 〒076-8555
富良野市弥生町1番1号
☎ 39-2306 ㊟ 23-2120
✉ zaisei-ka@city.furano.hokkaido.jp

概算事業費及び財源

概算事業費
道内の他の庁舎建設事例を参考に建設工事費単価を想定し、新庁舎の面積8,200㎡とした場合の概算事業費は次のとおりです。
今後の設計段階においても、さらなる縮減・効率化に努めます。

概算事業費	58億円
-------	------

財源見通し

概算事業費の財源は、公共施設等適正管理推進事業債(地方債)の「市町村役場機能緊急保全事業」と「集約化・複合化事業」の活用、庁舎等施設整備基金を予定しています。

地方債	51億円
庁舎等施設整備基金	7億円

上記の地方債を活用することで、国の財政支援の地方交付税措置があり、返済利息を含めた市の実質的な負担を次のとおり見込んでいます。

国の財政支援(地方交付税)	20.1億円
---------------	--------



実質的な市の負担	46.9億円
----------	--------

市民説明会 市民のみなさんの参加をお待ちしています。

富良野市新庁舎建設基本計画(案)

市民説明会

新庁舎建設に向け、市民のみなさんに基本計画(案)をお知らせし、ご意見をいただくため、次のとおり市民説明会を開催します。

開催日	開始時間	会場
4月9日(火)	18:30～	文化会館 大会議室
4月10日(水)	18:30～	山部福祉センター 大ホール
4月12日(金)	18:30～	東山公民館 大ホール
4月16日(火)	15:30～	ふれあいセンター 集会室
4月18日(木)	18:30～	麓郷集落センター

※各会場とも開場は30分前です。所要時間は概ね1時間程度を予定しています。

※各会場とも同じ内容になりますので、都合のよい会場のいずれかをご自由にご参加ください。

㊟財政課 ☎ 39-2306